

## 図書館長 に聞く

令和2年4月1日より就任された、図書館長今井正浩先生に、この半年間の振り返りと今後の抱負についてお聞きしました。

——4月から図書館長に就任されましたが、これまでの半年間を振り返っての所感をお聞かせください。

図書館の通常業務に加えて、新型コロナウイルス感染防止対策、雑誌棟の改修にともなう業務への対応等、緊張感のある毎日を過ごしています。幸い、三上豊事務長をはじめ、図書館事務職員の方々の努力、教職員の方々や学生諸君のご協力によって、業務を進めてくることができました。皆さんに感謝したいと思います。

——今井館長のご専門は西洋古典学ということですが、学生時代はどのように大学図書館を利用されていましたか？

大学生時代のわたくしにとって、図書館は、いわば生活空間の一部であったと思います。平日の授業のない時間帯の多くを大学の図書館で過ごすのが、日課のような日々でした。目的があって図書館を利用するというだけでなく、そこにいと、知的好奇心が触発されるというか、不思議な経験でした。そこに集う人々の「知への志向」が、一か所に凝縮した結果、醸し出される雰囲気というのは、図書館特有のものではないでしょうか。

本学の学生諸君（とくに新入生）も、わたくしと同じような経験を、本学の図書館を通して、ぜひ追体験していただきたいものです。

——館長の考える「大学図書館」について、お聞かせください。

「大学図書館のもっとも重要な役割とは何か」との問いに対しては、いささか抽象的な表現になりますが、「大学の知性を体現する場」としての役割であると答えます。以前、イギリス滞在中、ロンドンの大英図書館に赴いた時、哲学者フランシス・ベーコンの「知は力なり」という言葉の重さを改めて実感しました。

大学図書館である以上、各専門分野の図書をはじめとして、学術資料等が充実していること、それらが知的関心の高いすべての人々に開かれていることに、大学図書館としての非常に重要な存在意義があると考えています。

——今後の抱負をお聞かせください。

昨今、各大学の研究成果の集積と発信の場、地域社会に開かれた教育研究の場等としての大学図書館の機能強化が一層もとめられているという状況にあります。その中で、本学の図書館が果たすべき社会的使命をしっかりと担っていくことが非常に重要であると考えています。

これを実現するためには、先ほど申し上げたように「大学の知性を体現する場」としての大学図書館の重要な役割をしっかりとふまえて、その運営体制や機能を、デジタル化の実現に向けて急速に進んでいる社会全体の動向に合わせて、一層強固なものにしていく必要があるのではないのでしょうか。



### 附属図書館長

今井正浩 IMAI Masahiro

弘前大学人文社会科学部教授

早稲田大学卒 東京大学卒

専門／西洋古典学

### ～館長の素顔～

Q.座右の銘は？

「謙虚」と「寛容」（いずれも聖書から学びました）

Q.ご趣味は？

切手収集（1970年の大阪万国博覧会前後の切手ブームの生き残り）

中国拳法（1980年代の中国武術ブームの生き残り一年齢を重ねても、体が覚えています）

Q.休日の過ごし方は？

読書と散歩（弘前市は歴史文化の香り豊かな街なので、散歩に出るたびに、新しい発見があります）

Q.最近うれしかったことは？

図書館長に就任したことで、学内外の多数の方々と新しい繋がりをもつことができました。